

平成29年度 年度末評価結果

杉並区立堀之内小学校

校長 渡部 公威

1 自己評価の結果

(1) 成果

- ① 今年度の最大の成果は、ICTを活用した授業の推進である。保護者 80.9%、児童 89.6%という共に高い肯定率を得られた。今後も区教委と連携しよりよい活用方法を見出し実践していく。
- ② 80%以上の保護者から、子供が学校生活に満足し、学習や体育・健康面での力を伸ばし身に付けているととらえている。専科と連携した担任による学級経営や地域と連携した教育活動、道徳教育において70%以上の肯定率を得ており、概ね学校経営方針を実現できている。

(2) 課題・手立て

- ① 特別支援教育の理解・啓発(28.7%)についての肯定率が低い。要因の一つに、実践している対応や取組があまり知られていないことがある。PRをして全校児童、保護者に知ってもらうことを目指していく。
- ② 学習成果の実感では、保護者の肯定率84.7%に対し、5・6年児童の肯定率が63.9%と全体的に低く、児童の個に応じた指導に対する肯定率が30.6%であることから、児童の自己肯定感を高め、個に応じた指導をより重視していく必要があると考える。そのために、誉め、認めて育てることを家庭と連携して実践し、多くの教職員で児童のよさを多面的にとらえ伸ばしていくようにする。朝や放課後の補習や夏休みパワーアップ教室を充実させていく。

2 学校関係者評価の結果

(1) 成果

- ・堀之内小は子供たちが落ち着いていてあいさつもよくできよい評判が聞こえている。(町会より)
- ・学力の向上の取組の成果が学力調査の結果に反映されていて、先生たちの努力、研鑽が伝わる。
- ・ICTを活用した授業は、学校や教育が時代と共にどんどん新しくなっていくと感じた。
- ・学校支援本部を中心に、地域と連携した取組が多く、定着してきている。地域が好意的に意見を学校に言ってくれ、苦情が少なく教育活動を実践しやすい。子供たちも地域の行事に多く参加し、地域の方も学校にたくさん来てくれている。

(2) 課題・手立て

- ・特別支援教育について、保護者を巻き込んで取り組んでいく必要がある。(PR、学習会など)
- ・学力調査の結果はよいが、学習成果の実感がもっともてるよう一人一人をよく見て、家庭と連携して指導していく必要がある。
- ・学校の組織的な対応や小中一貫教育(幼保小連携)の取組等、目に見えにくい部分をもっと知ってもらえるよう、PRをしていく。

(3) その他

- ・学校関係者評価委員会に学校運営協議会の委員の他に、学校支援本部長やPTA会長の他にも、町会や地域協力者など、多くの人をメンバーにしているのがとてもよい。(委員より)
- ・学校公開で学校報告会を開催し、校長から今年度の振り返りを聞けるのはとてもよい。